

乙卯九月廿八日

卯辰十五年十月六日

日中力創

解

規

到之委



口年わり開後存布法海白... 乙卯九月廿八日... 卯辰十五年十月六日... 到之委

葉

去月... 乙卯九月廿八日... 卯辰十五年十月六日... 到之委

此書可成期限外餘之口之重与殿子

即一四坂十五年十月了中大凡

才本七りさき油ニケル御御

御也御御

系考乙未十一号附

卯四午三三〇七〇

去月三十日附以多日本報水社紙ヨリ本
稿已因ハ不ノ開設可也本年ヨリ日回ル
因ハ不ノ開設可也本年ヨリ日回ル
此後及以照會也

明治十五年十月五

警視總監樺山資紀



日本報水社紙ヨリ本
大抵本報記者等因隨之取證

大抵此山俗呼曰西嶺... 呼為北德山嶺也

嶺巔有石... 嶺巔有石

此山十餘里十餘里

去石... 去石

此山... (嶺巔有石) 嶺巔有石

此山... 嶺巔有石

此山... 嶺巔有石

此山... 嶺巔有石

此山... 嶺巔有石

此山... 嶺巔有石

日本銀行華英通譯
二十五年十月七日

乙卯年十月

明治十五年十月六日

創立事務所所長三田信



創立事務所委員

柳田掛

二十五年十月日本銀行開業之新新聞紙(廣告案大)の意也

十日十日

明治十五年十月十日刊行の貴社新聞紙(列紙)通
廣告文の掲載料と名取料一宗ハ中城等ノ仕
拂子中改此員乃依類也

二十五年十月六日

日本銀行

百十

何々社中

廣告

本行裁明治十五年六月二十七日太政官布告第三十二号

日本銀行條例ヲ遵奉_{（此來ル）}十日ヨリ開業致候此段廣

告也

日本銀行ヲ設立シ

明治十五年十月七日

東京日本橋區北新堀町_{（北一番地）}
日本銀行

廣告スヘキ新聞紙ノ名

○日新新聞 〇明治日報 土產社 〇報知新聞 〇朝野新聞 〇讀賣新聞 〇橫濱毎日新聞

時事新報 〇大坂新報 〇大坂新報 〇大坂新報

〇大坂新報 〇大坂新報 〇大坂新報

〇大坂新報 〇大坂新報 〇大坂新報

〇大坂新報 〇大坂新報 〇大坂新報

三三三三三

左

來九日十日第十一日刊行之貴社新聞紙ハ別紙之通
廣告文以掲載被下度古代料ノ義ハ申誠ニ才
仕拂可也及此依頼也
明治十五年十月六日
日本銀行

日報社中

明治十五年六月二十七日太政官第三十二号布告日本
銀行條例ヲ遵奉シテ日本銀行ヲ設立シ東京日本
橋区北新堀町二十一番地ニ於テ來八十日ヨリ開業又
此段廣告也

百六十一

日本銀行

日本銀行事務所達洋
五年十月七

乙卯百五號

明治十七年十月 日

日本銀行別立支店事務

別立支店員



川島三三



日切限の扱方全一四の呈と申すは、
揚子三才限の取扱にあつたは、
あおのり

三枚

校合濟

下年九月十号より左三才の取扱は、
西下ラ之に九月十号より、
七才の取扱は、後ラカハ、

揚子三才限の取扱は、
日切限の別立支店員と

日切限の別立支店員と

百五十二

乙卯 百五拾

明治十七年十月 日

日本銀行 別立金員

別立金員



川島山 刻



日切限り扱屋に一回の星らあきりツカ一両五拾のりやとあし
限りのり限りのり沙汰にあつたはるは五拾もたつたはる
あはすのり扱屋にあはるなり

書

日切限りや一回の星らあきりツカ一両五拾のりやとあし
限りのり限りのり沙汰にあつたはるは五拾もたつたはる
あはすのり扱屋にあはるなり

百五十二

日本銀行事務所達洋
五年十月七日

ナスハキリ

一 火盛影の句海河のさきまの生えり根の影の中は

修修りの根をえりては根の影のさきまの生えり根の影の中は

ある根の影のさきまの生えり根の影の中は

一 日々の力をいとおきり年々十時根の影のさきまの生えり根の影の中は

根の影のさきまの生えり根の影の中は

一 力をいとおきり年々十時根の影のさきまの生えり根の影の中は

事

名をいとおきり年々十時根の影のさきまの生えり根の影の中は

根の影のさきまの生えり根の影の中は

日地根の影のさきまの生えり根の影の中は

明治二十九年九月

其

其

第一馬路の

馬

馬路

馬

第二馬路の

馬

馬路

馬

第三馬路の

馬

馬路

馬

二馬路

日本銀行事務所 濟河津
五年十月七日

百字四

乙種万動員

西暦十月十日

別立身貨

別立身貨

口切海別立身貨

この都府の財を中込ら者白入を事所へ、
此の都府の財を中込ら者白入を事所へ、

二重抄書

ニオンキンコウ。カフキンのシキウ。ニウキン
アレ。

この都府の財を中込ら者白入を事所へ、

手打紙

高都清の上多已入和之妙蓮寺也

山田多由方即了也

高都清の上多已三振和文堂前ハリ北

高都清の上多已十振和文堂前

高都清の上多已十振和文堂前

田中 初七

高都清の上多已三振和文堂前

何ノ為也即也

高都清の上多已十振和文堂前

大 高 之 結

乙卯年口云

四月十日午十時

子卯辰巳午未申酉戌

知東 辰と

創立委實

善法中三行 新地 欠之ヲ先テ之ヲ古知
者 厚クする 法 亦 尚 且 何 事 亦 爲
按 之 亦 何 事 也

一 善法 中 三 行 新 地

相 然

有 以 漸 一 年 亦 多 行

子卯辰巳午未申酉戌

四月十日午十時

知東 辰と

百五十五

今計古事
立回教信及

乙卯百口

明治十五年十月六日

日本銀行創立事務所雇

八重原信也



創立書



八重三圍三拾三或三厘

硯石其外什器類雜品

右別幣証音六葉ノ通仕松申度此般相伺候

也



乙卯百五郎

日本銀行創立之事勢所雇

明治十五年十月六日

八重原信也

創立委員

日本銀行創立ニ係ル諸費用仕掛ノ為八金三万圓豫定
ノ内追々大藏省會計局ヨリ引出シ支弁イタシ居候如
目下現在金僅少ニ誣キ候間尚又八金千圓請求イタシ
度同局、活照會按左ニ相伺候也

記

八金千圓也

右八日本銀行創立之費ノ内ヨリ明七日本行ノ金額

百八文

御渡相成度此段及活照會催也

日本銀行創立委員

明治十五年十月六日

富田鐵之助

會計局長

立田彰信殿

乙卯年十月廿六

明正十五年十月廿六

日本地方創設事務所

河内

別主 委負



一令三物四百也

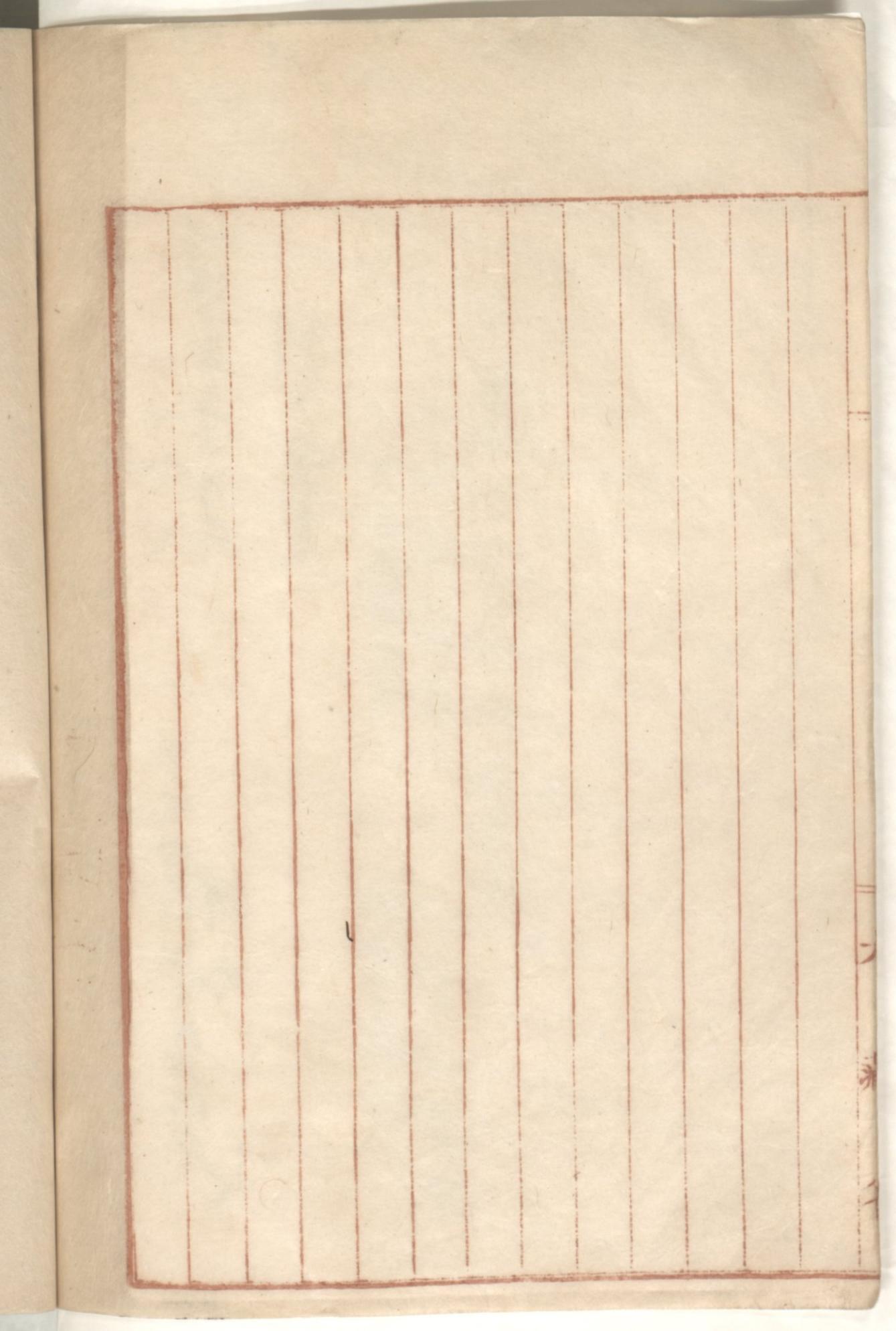
一令三日の程也

此札を以て
向取

主人より
分取

取購求ふに之代取向也





乙卯年七月

丙午年七月

乙卯年七月

河

記

劉之妻

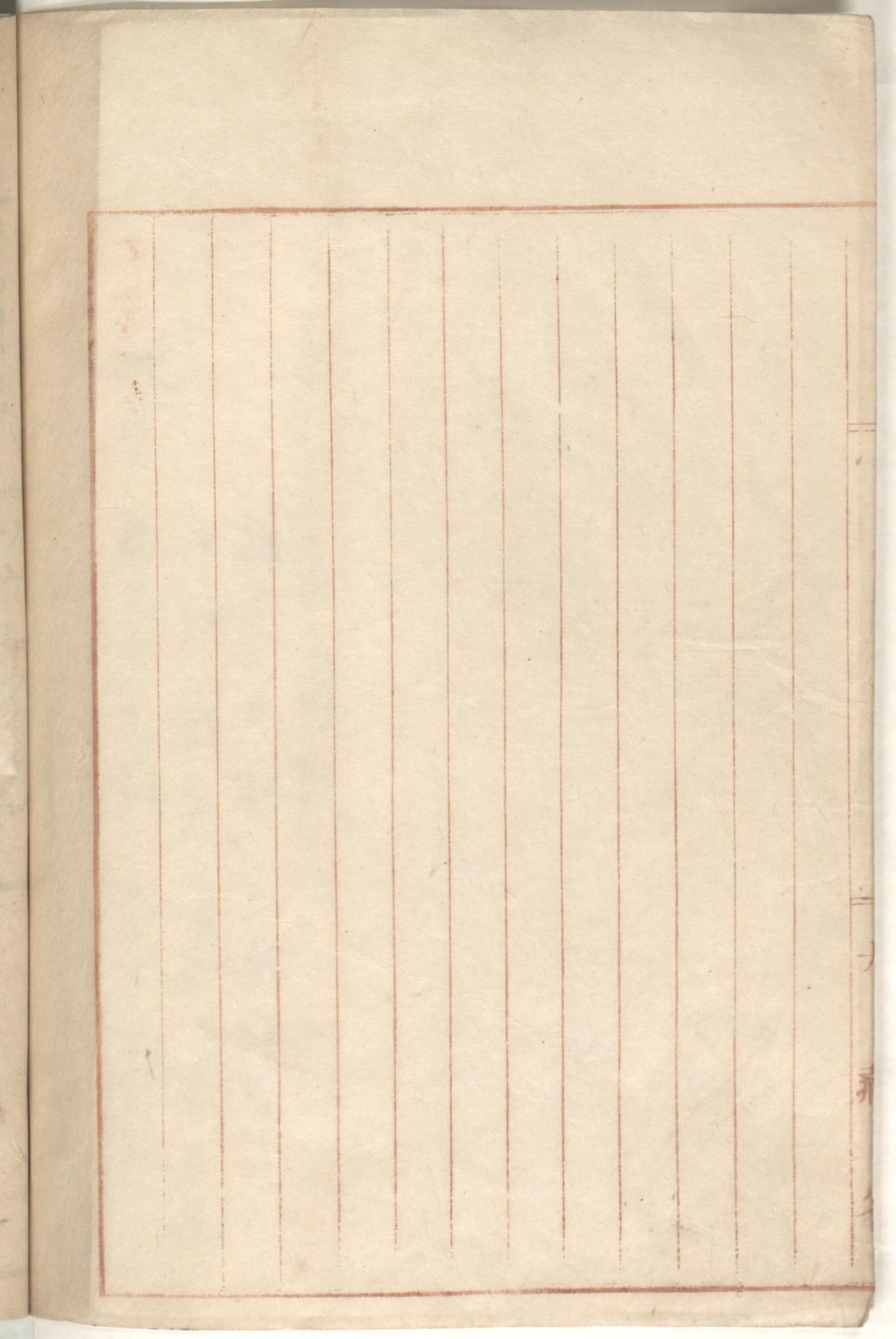


二存... 乙卯年七月... 丙午年七月... 劉之妻... 河... 記... 乙卯年七月... 丙午年七月... 劉之妻... 河... 記... 乙卯年七月... 丙午年七月... 劉之妻... 河... 記...

百廿九

△地石

名古屋、長崎、仙臺、釜石、廣島、
 新潟、津島、若狹、西京、馬場、
 福島、大坂、神戶、
 多摩川、下川



通
り
の
事
々
々

ソ
ウ
リ
ウ
イ
イ

ソ
ウ
リ
ウ
イ
イ

明治十年送達紙

百九十二

技術

〆〆〆

局	着	局	發
月 日	大藏省電信分局 第三十三號	字數 七十八字	午 九時五十分
			方 九時五十分
			第 廿三號
			報

通り心得ベキ事

ツシジケヤクウミ
 日 込 様 知 地 三
 侯 モウコウ+サツ
 フ 二 三 御 無 三 井
 王 込 日 御 一 三
 急 宣 限 指 直 井 太
 ウテゲアホハテ 店
 コハシウマ 報 未
 荷 思 モマクダ コヨ
 フ 三 又 知 ヲリ
 報 十 アツ
 マシウル 通 當
 受

ソウリウイ
 トミタ
 コククタイ
 カシ

百九十一

册 第 十 号 第 二 卷 第 一 册

姓 名

水野 一

同

一 日

大藏省御用金局

管

第 一 号

宇 横 十 八 号

同

十 二 月 一 日

日

大 藏 省

第 一 号

册

眼 目 以 外 之 事

Handwritten entries in a ledger format, likely a financial or inventory record. Each entry consists of a vertical column of characters, possibly representing a date or amount, followed by a larger, more complex set of characters. Red ink annotations are present throughout, including characters like '日', '三', '井', '十', '五', '六', '七', '八', '九', '十', '十一', '十二', '十三', '十四', '十五', '十六', '十七', '十八', '十九', '二十', '廿一', '廿二', '廿三', '廿四', '廿五', '廿六', '廿七', '廿八', '廿九', '三十', '三十一', '三十二', '三十三', '三十四', '三十五', '三十六', '三十七', '三十八', '三十九', '四十', '四十一', '四十二', '四十三', '四十四', '四十五', '四十六', '四十七', '四十八', '四十九', '五十', '五十一', '五十二', '五十三', '五十四', '五十五', '五十六', '五十七', '五十八', '五十九', '六十', '六十一', '六十二', '六十三', '六十四', '六十五', '六十六', '六十七', '六十八', '六十九', '七十', '七十一', '七十二', '七十三', '七十四', '七十五', '七十六', '七十七', '七十八', '七十九', '八十', '八十一', '八十二', '八十三', '八十四', '八十五', '八十六', '八十七', '八十八', '八十九', '九十', '九十一', '九十二', '九十三', '九十四', '九十五', '九十六', '九十七', '九十八', '九十九', '一百'.

Vertical handwritten notes on the left side of the page, possibly providing additional context or corrections for the entries in the ledger.

乙芳百九十九号

明徳十五年甲寅九月

日あはれ高き子孫あり

何れ

也

刻之妻あり



リ本初の下一回様至大令し日方及新下様を介
二芳多ふ大及出抑る玉法所へ押はる向身所
日出細ら、西向又念をいふ、今口知海近し
地より高部を府法にありし、新島下可列を
き下も如口探日外所行に於て押はる意欲に
是も探らる口向り向高部を果あり候はあはれ

妻

明りも高部を果あり候はあはれ
候はる高部を果あり候はあはれ

此所へ此は多岐子達思ひ成り下りし
いへり中し相立部活苦知りぬすは後と
各段ノ様態もさしそへて平手し便知り
み共ニ多岐わかし毎々ある所方反身下りし
知る便わたりし曰く此所へ此は多岐一
お又し後より年ある所又ち後ある
ら多岐此へ思ひこしめあるは所へ念
わ

おちり古あきまかり
る日 秋しぬ

去物より長

漢名文字
正

七葉百一〇号

明治十五年十月三

日吉の創

河

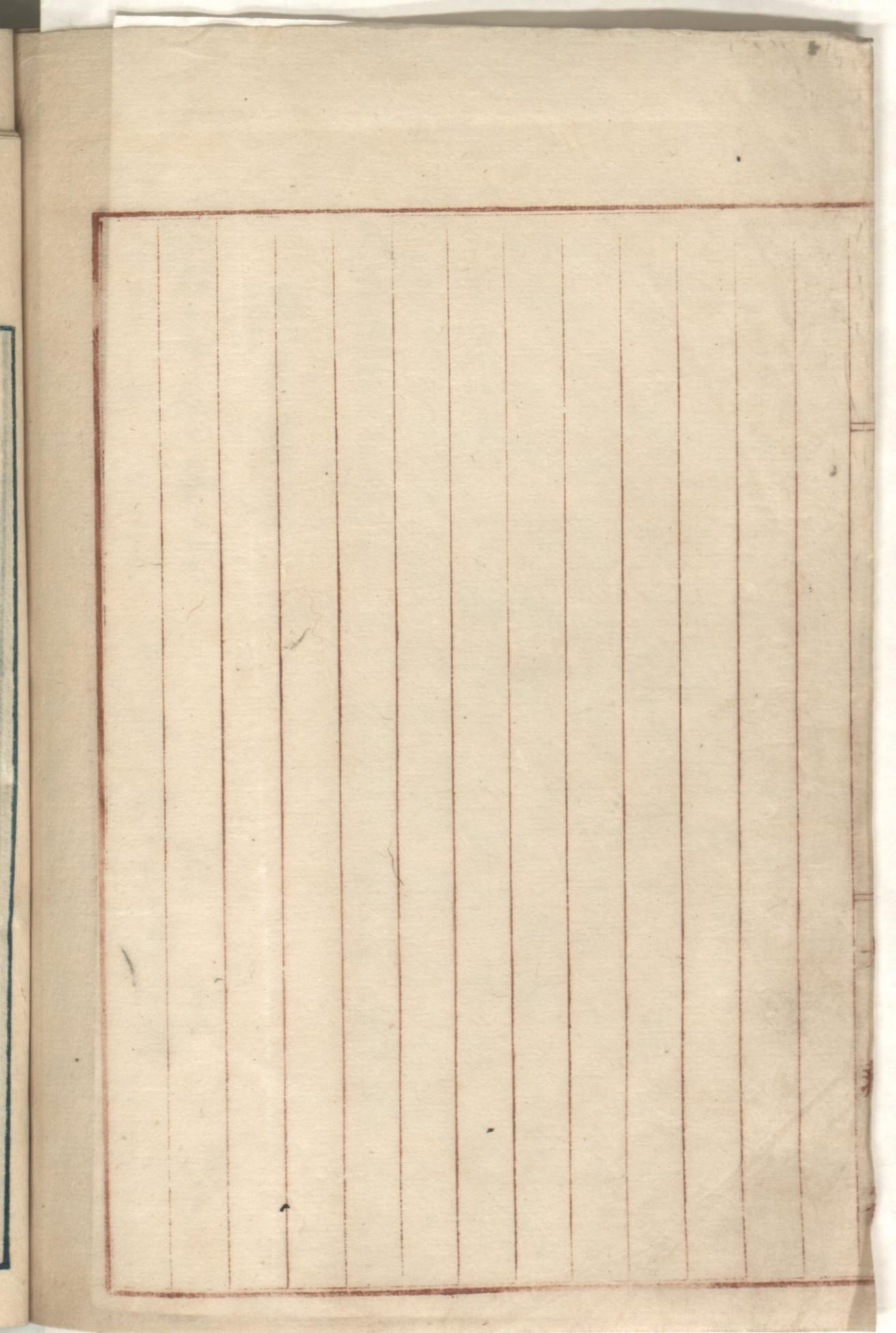
規

創立委員



予等其の由長テレブルに成し、自ら又、物考の道
を、その如く、即ち、軍に、物有、板ヲ、務、る、事、ヲ、振、興、ス、ル、ト、シ、
於、五、回、集、ル、事、ヲ、願、シ、生、シ、キ、事、ヲ、以、テ、志、ス、レ、バ、
而、者、ニ、モ、シ、只、新、業、未、成、シ、ル、所、僅、一、年、月、
事、ニ、由、ル、事、實、口、座、上、ル、機、也、自、ラ、シ、テ、之、事、
ト、何、下、方、其、成、ス、ル、機、也、ト、早、ク、ハ、物、考、道、ヲ、
正、シ、テ、其、成、ス、ル、機、也、ト、早、ク、ハ、物、考、道、

百九十四



甲

字

日本
銀行
中

S

百九十五

一 泚 テ五ノ几 積リ 葉

一 泚 テ五ノ几 燭長 指間口尺 高ニ葉身寸 燭葉身寸

一 大 土亮 燭葉身寸 厚寸六下 日 柱松身寸半 角葉間身寸葉

一 板 燭八寸 厚寸六下 或 銅 吸 附 身寸 尺 吸 附 松 身寸 半 角

一 羽 目板 燭身板 西 角 刺 之 目板 打 付 日 下 縁 松 燭身寸 尺

一 一 五 從 部 卜 土 亮 燭 身 寸 燭 口 寸 板 尺 厚 寸 六 下 板 尺

一 代 身 口 燭 七 板 身 寸

一 一 或 部 身 板 板 松 長 三 身 寸 身 寸 半 角

一 代 身 口 燭 七 板 身 寸

一 或作ハ下

吸剛
同土表

松長 壹尺 或寸五寸半

代 尺七 或五寸

一 或作ハ下

下 或

松 或弓

幅 或寸 或尺
厚 壹寸 或下

代 尺 壹 尺 壹 尺 壹 尺

一 振 尺 口 卜

寸 五 尺 板

松 或弓

幅 八寸 板
厚 壹寸 或下

代 尺 振 八 尺 壹 尺 或

一 壹 尺

壹 尺

松 長 六 尺 五 寸

幅 壹 尺 五 寸 板
厚 壹寸 或下

代 尺 壹 尺 壹 尺 或

一 三 尺 或 尺

羽 目 板 或 目 板

松 尺 或 板

代 尺 振 三 尺 壹 尺 或

一 尺 六 尺 或 尺

釘

一 卷七部 周七部 卷七

車力

一 卷七部 周七部 卷七

大工手寫

一 卷七部 周六部 卷七

本一 卷七部 周六部 卷七

明正十五年十一月三日

中斷 幸治所



百九十八

乙

字

日本銀行
中

滑 于五ノル 後ノ書

一 滑 于五ノル 惣長 指間尺 高五尺寸 幅五尺寸 厚三寸五分

一 木 土 瓦 檜 幅四寸寸 厚三寸六分 同 在 松 寸 半 是 同 弓 之 是

板 檜 幅八寸 厚三寸 下 部 別 吸 附 三 寸 寸 他 必 附 松 寸 半 下 角

羽 目 板 板 口 上 板 三 言 而 角 割 之 目 板 打 付 同 下 濠 松 幅 四 寸 厚 三 寸

一 木 檜 部 下 土 瓦 檜 幅四寸寸 厚三寸六分 後 内

代 名 口 周 七 板 五 寸

一 或 稱 八 寸 檜 松 長 三 尺 寸 厚 三 寸 半

代 名 口 周 五 板 五 寸

一 身板八分

吸附
同五卷

松長壹天 一尋寸即下板

代身七板五寸

一 身板八分

下板

松身 幅即寸 松板
厚壹寸

代身壹周或張也

一 板板四寸

元五寸板

松身 幅八寸 下板
厚壹寸

代身板八周五板

一 壹板

書板

松長六定寺 幅壹尺五寸 板
厚壹寸

代身壹周八板

一 五板九板

羽目板目板

松身 尺板壹尺

代身七周八板

一 身六板五寸

引

一合壹圓七折五元

車力

一合壹圓七折五元

大工車馬

一合六折七圓五折五元

本之通下入志切之朱江也

丙辰年十月三日

中野 幸次郎

- 一 出納課事務取扱手續
- 一 同課ヨリ内規中ノ條項伺
- 一 預金課所出帳為
- 一 出納課ヨリ内規中ノ條項伺
- 一 株式局ヨリ同斷伺
- 一 精算課ヨリ同斷完見
- 一 同度課ヨリ支拂方帳簿伺
- 一 席順及誓紙ノ条項ヲ定ムル伺
- 一 株式局事務取扱順序
- 一 為替課事務取扱順序

明治五年十月六日

日五廿九日

何れ

地

別主委負

一令留五取七

龍女桑外
四ノ字

九
江
北
三
年
下
あ
り
や



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

六
卷
八

三

改印二篇



和印形欠換其年友一印新一過
其印中其法安以而法也

明治十五年十月一日

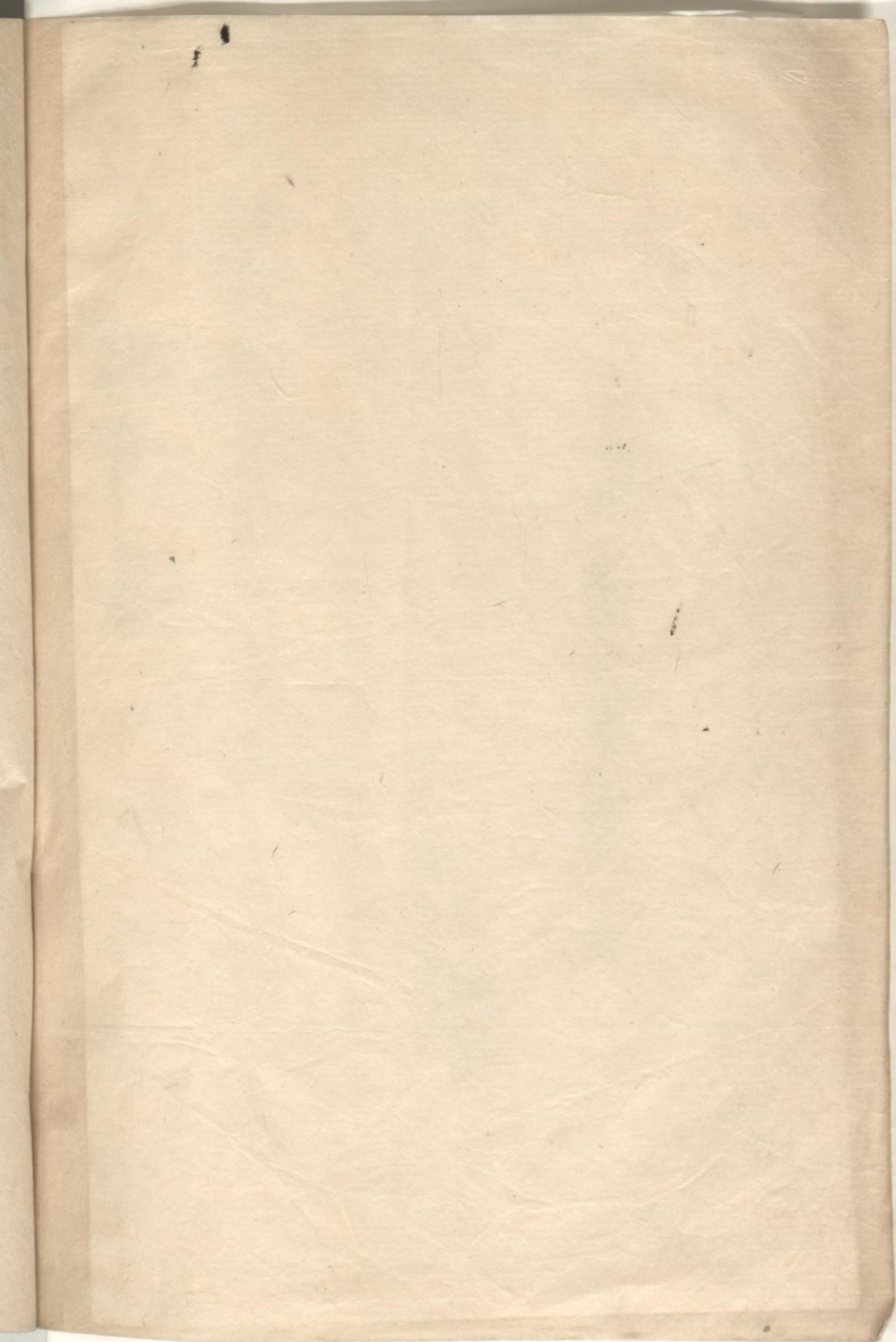
三田信

三田信

日本銀行總裁官田村三郎殿

印影





明治十五年十月九日

刻主 妻 貞

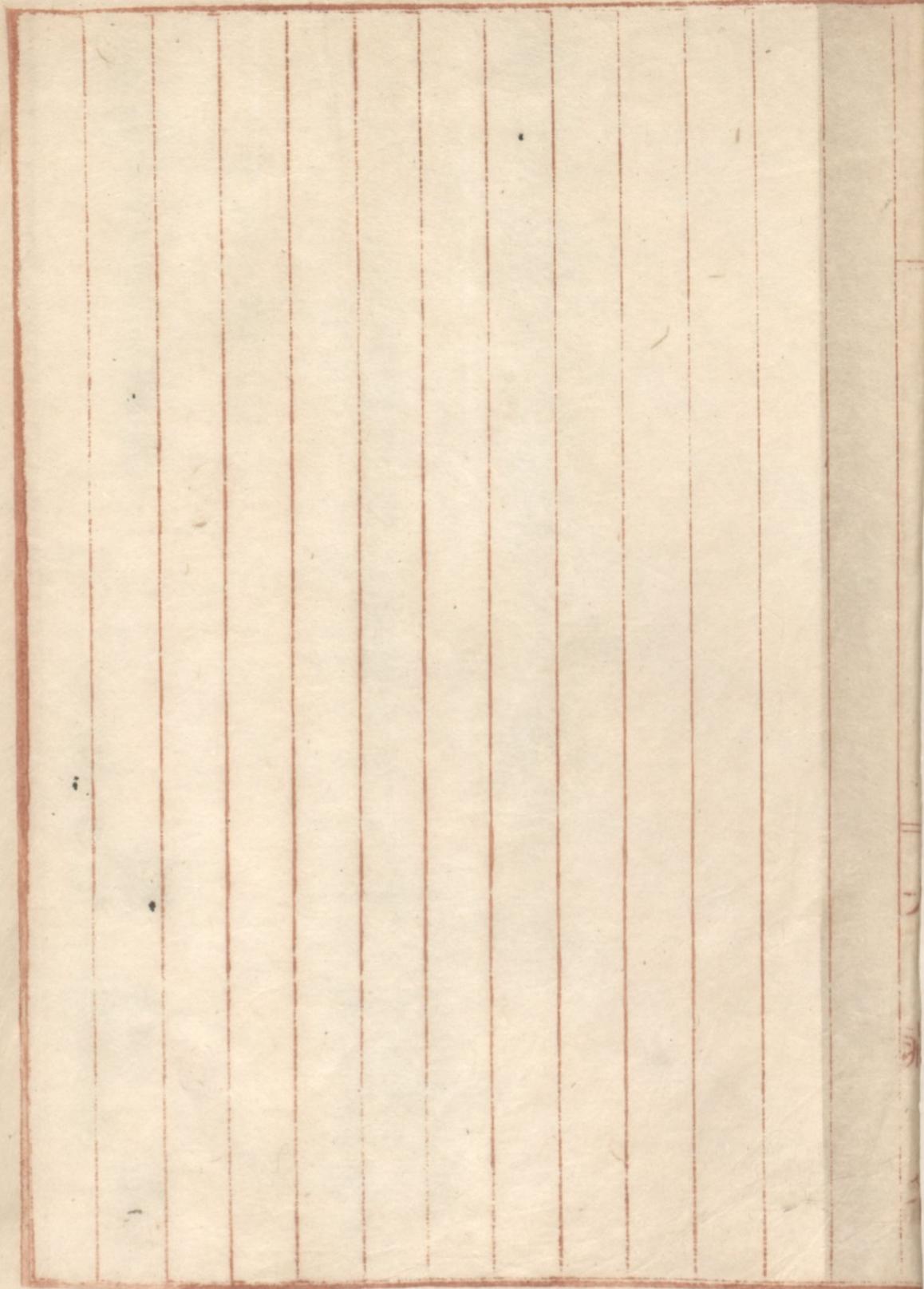
日 本 書 院 刊

河 合 規

一 等 七 冊 七 冊 之 類 也

治 比 河 澤 春 馬 口
其 他 子 氏 請 公 者
斗 以 於 五 冊 之 類 也

明 治 十 五 年 十 月 九 日



明治十五年十月十日

創立了務所種三函信

創立了務委員



日本銀行へ門書及小使取臨トシテ左ノ三名ハ種又委員
ト因テ詳令業左ト有言候也

長谷川忠太郎

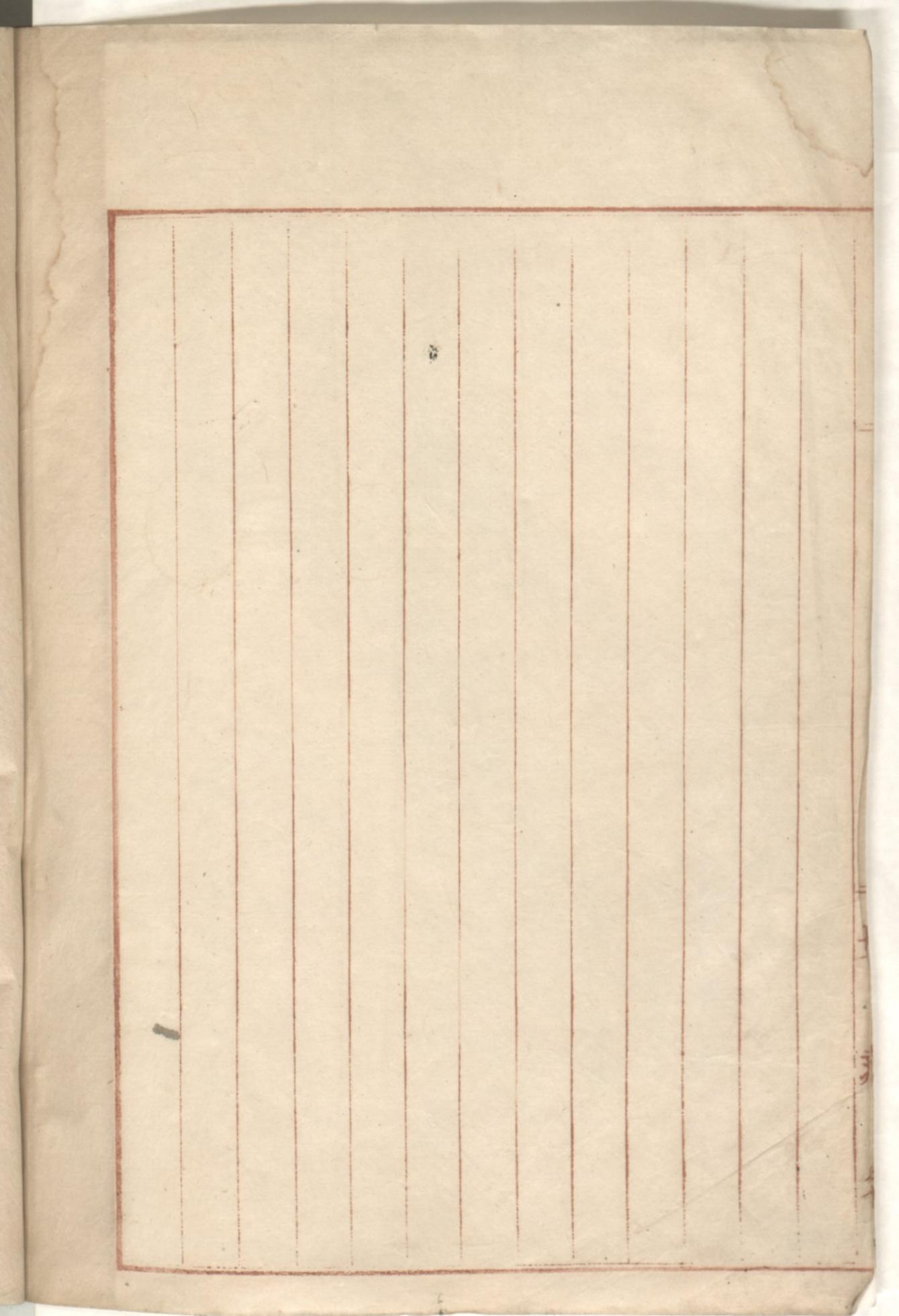
佐々木甚吉

梶 幸助

常行ハ有月俸九急支給被事

明治十五年十月日

日本銀行



乙卯八月十二日

明治十五年十月九日

日本銀行用度課逆見清農
大藏省會計局高勝田政養

總裁

副總裁

創立委員



新築倉庫本日延義存受買者土庄組頭取伊集
院為常例一名引別紙之通、出興生案執事付在
本月二日午前六時十五分以大門風白、俄然建前
号代等、似立柱、地着男、以搦、東南、方高尾稻
倉社、乃、毀、懸、氷室、工、向、者、倒、刻、加、着
橋、大、書、記、及、等、出、以、現、場、地、是、令、通、者、之、

6.

執事十日間手席り、可成ふ得已儀、存候且又
本久、外日升降口取設、建築日數、十日間日延、
内、物代着成、可取形意、可取之方、以御圖、無
成、可然哉、依之、御指令案、左、可御、也

中案

願之趣、聞置候事

年 月 日

日本銀行總裁

御建築落朱日限日延儀建願及書付

今般木製西洋館御建築儀一斗御清原公_ノ付

本月廿五日迄落朱_ニは_レ夜更_ニ同月二日大風_ノ為_レて建

去_レ日代_ニ御側_ニ建具外建_ニあ_レ相運_ト也_ノ患_ニ皆_ニ吹倒_レ也

就_ニハ建_ニ去_レ日代_ニ建直_シ柱_ニ具外木_ニ折損_ト分_ニ引換

下_ニ存_ニ當_ニ去_レ日代_ニ相_ニ生_レ也_ノ御_ニか_レ又_ニ外_ニ昇_レ降

口_ニ由_レ也_ノ及_ニ相_ニ來_レ廉_ニ儒_ニ御_ニ建_ニ築_ニ互_ニ負_レ方_ニホ_レ也_ノ付

也_ノ儀_ニ去_レ日代_ニ延_ニ相_ニ願_レ也_ノ西_ニ日_ニ限_ニ迄_ニハ_レ落_レ朱_ニ相_ニ來

兼_ニ也_ノ按_ニ去_レ日代_ニ尚_ニ十_ニ日_ニ間_ニ御_ニ延_ニ儀_ニ建_ニ願_レ後_ニ然_レ也_ノ也_ノ也_ノ

廣トモ本月廿五日由廣多相連落朱ト仕ト間行
平右ト延ト儀江來ト後ト又ト四開滿ト程ト也

願也也
明治十五年

十月九日

乙本組以也

伊集院重義

吉田左次郎



日本銀行

御中

願之趣聞
届候事

行書劉氏家書尾書中道之也

十七年十一月九日

日切張氏副書裁由申啓上中

日切張氏副書裁由申啓上中

此如局書

大初方書江書古名字人取

日切張氏副書裁由申啓上中
為身之少少之知過之好抄者其直書之
切之其苦也防之其苦也防之其苦也防之
好之其苦也防之其苦也防之其苦也防之
好之其苦也防之其苦也防之其苦也防之

...

乙亥三十七号

十五年十一月二十日

信裁

副信裁

理事

多事

計事

多事

出納課

大正

三壽村

井

大

田

野村

大板五店之五重堂本区に於ては、
午後六時五十分迄、自之五重堂本区に於て、
至五重堂本区に於て、午後六時五十分迄、
午後六時五十分迄、自之五重堂本区に於て、
午後六時五十分迄、自之五重堂本区に於て、
午後六時五十分迄、自之五重堂本区に於て、
午後六時五十分迄、自之五重堂本区に於て、
午後六時五十分迄、自之五重堂本区に於て、
午後六時五十分迄、自之五重堂本区に於て、
午後六時五十分迄、自之五重堂本区に於て、

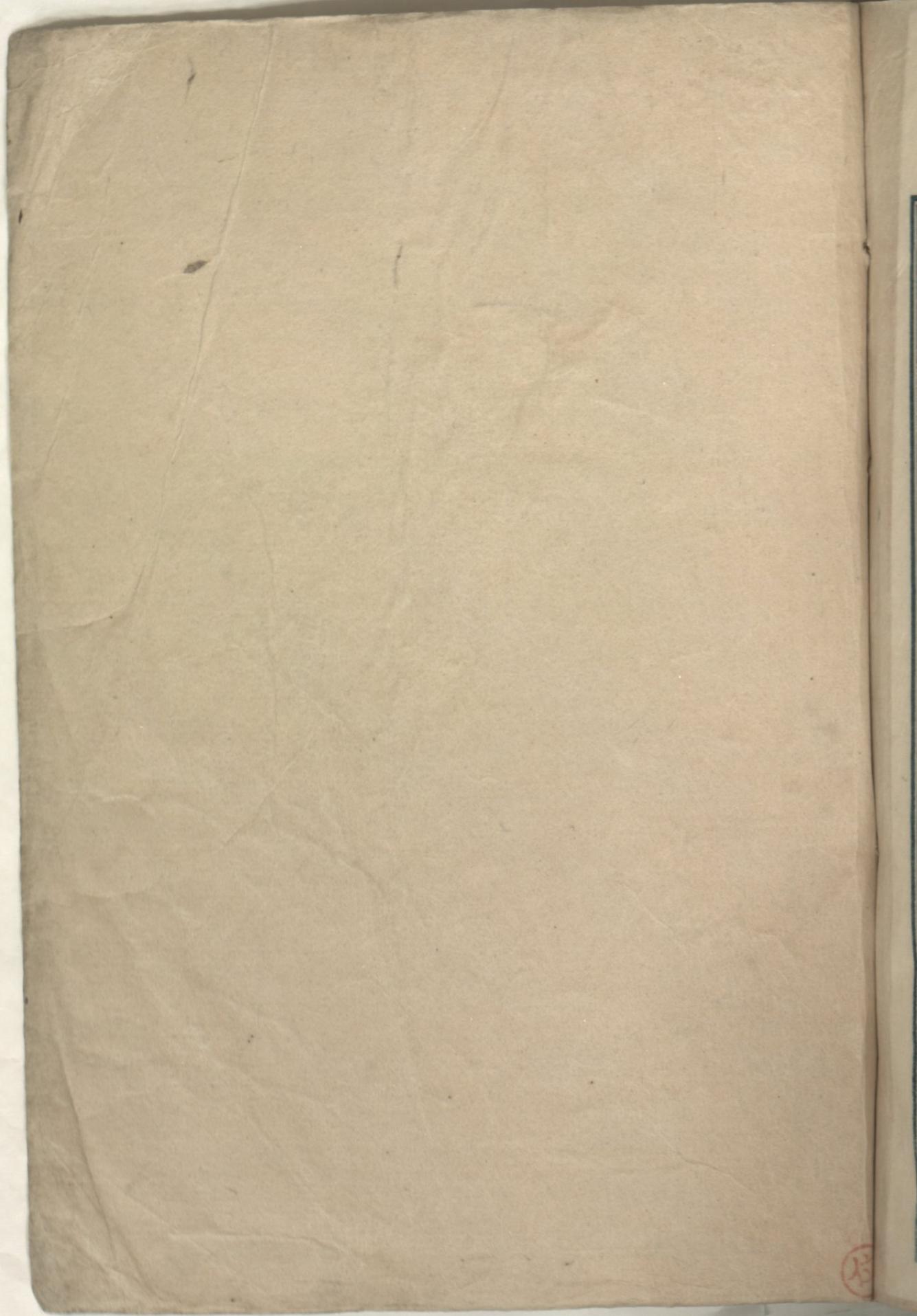
少加の長記

信裁

久世の人の長記之在りて其の信の至るは
其の象に在りて其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは

其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは
其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは

其の象の至るは其の象の至るは其の象の至るは



339